

第4節 〈やさしい日本語〉

第2章で提示した2種類の調査の結果、今後外国人材が増加していくと考えられるゲーム等のコンテンツ業界において、企業側にとって外国人材の獲得に最も大きな障壁となっているのが日本語力の問題であった。しかし、企業側が外国人材に求める日本語力が始めから高すぎている場合もあり、受け入れ側として自身もより分かりやすく平易な日本語を用いることで、コミュニケーションが円滑になる場合もあるだろう。以上のことから、本事業におけるカリキュラムは外国人材にも伝わりやすい〈やさしい日本語〉の観点を盛り込むこととする。

第1項 〈やさしい日本語〉概要

本節では、日本語能力がまだそれほど高くない外国人材と会話をする際に活用できる〈やさしい日本語〉について説明する。

近年、訪日する外国人旅行客は増加の一途をたどっている。また、日本で働く外国人材や外国人材留学生といった在日外国人の数も増加傾向にあり、行政や観光、飲食といった産業では外国人対応の必要性が増している。外国人にとって最も理想的な状況としては行政、産業界が多言語対応し、すべての外国人が自身の使用する言葉をメインに使用しながら滞在、生活できるということだが、実際にはコスト面、人材面で不可能といえるだろう。

そのため、現在日本では英語、中国語といった日本に滞在または生活する外国人の使用する主要な言語への対応が進み始めている。ただし、そのような言語だけで全ての外国人に対応できるわけではない。国立国語研究所による日本で生活する外国人を対象とした2009年の発表によると、「英語ができる」と回答したのは44%のみであった。一方、「日本語ができる」と回答しているのは62.6%

であり、日本で生活する外国人は英語よりも日本語の方が得意な傾向にあることが分かっている。そういった状況の中、正しい情報発信と円滑なコミュニケーションの手段としての〈やさしい日本語〉が多方面で注目を浴びている。

〈やさしい日本語〉の誕生は、1995年の阪神・淡路大震災までさかのぼるといえる。当時、必要な情報は日本語と英語以外ではきちんと発信されておらず、これらの言語が得意ではない外国人は情報を得ることに苦労していた。たとえば、一定程度の日本語能力を持つ外国人であっても、災害時に行政やメディアから発信される固く難解な形式の日本語は理解が難しかった。このような反省から、情報弱者となっている外国人に向けて必要な情報を分かりやすい平易な日本語で発信しようという動きが生まれた。現在では、英語、中国語、ポルトガル語といった主要な在住者の母語と同時に〈やさしい日本語〉でも情報を発信している自治体が増えてきている。

例えば、弘前市、兵庫県等は〈やさしい日本語〉を用いた避難誘導標識や施設案内を設置しており、大阪市交通局は電車の遅延情報に関する案内を〈やさしい日本語〉でも掲載している。また、県主導で『「やさしい日本語」の手引き』を作成し、WEBサイト上で公開することで県民に普及させる努力を行っている例として愛知県、岡山県、島根県等が挙げられる。このような冊子は、各地域の国際交流系の協会・団体によっても作成されており、自治体と連携している例として山形県が挙げられる。

こういった努力は教育機関や企業からも進められている。例えば、弘前大学人文学部社会言語学研究室では常時WEBサイト上で災害情報や生活情報を〈やさしい日本語〉で提供しており、東日本大震災時に被災した外国人を支援したほか、自治体やNPO法人と連携した取り組み、〈やさしい日本語〉を学べるEラーニング教材「Eラーニング版 わかる！伝わる！はじめての『やさしい日本語』～基礎文法編～」を用意している。また、一橋大学の庵功雄教授をはじめとした研

究グループは、日本語学及び日本語教育学の観点から〈やさしい日本語〉の研究を行っている。

さらに、日本語教師養成講座大手ヒューマンアカデミー協賛による東京外国語大学との産学連携プロジェクト「「やさしい日本語ツーリズム研究会」」が福岡県柳川市の「やさしい日本語ツーリズム」事業と連携する形で発足し、観光産業での〈やさしい日本語〉を推進している。そして、NHKも独自にその日のニュースをいくつか〈やさしい日本語〉に置き換えて発信する News Web Easy という取り組みを行っている。

第2項 〈やさしい日本語〉事例

本項では、〈やさしい日本語〉について学ぶことのできる書籍、教材、研修を提示する。それらの知見を活用することで、本事業における〈やさしい日本語〉の科目の内容の参考とする。

1. 『やさしい日本語 –多文化共生社会へ』

・著者 / 出版社

庵功雄/株式会社 岩波書店

・目次

第1章 移民と日本

第2章 〈やさしい日本語〉の誕生

第3章 〈やさしい日本語〉の形

第4章 外国にルーツを持つ子どもたちと〈やさしい日本語〉

第5章 障害をもつ人と〈やさしい日本語〉

第6章 日本語母語話者と〈やさしい日本語〉

第7章 多文化共生社会に必要なこと

・所見

人口減少を背景に移民受け入れの議論が盛んになっている中、外国人受け入れるとしたときに解決しなければならないことばの問題として〈やさしい日本語〉を提起している。地域社会で共通言語になりうるのは英語でも普通の日本語でもなく〈やさしい日本語〉だけであるとし、移民とその子どもにとどまらず、障害をもつ人、日本語を母語とする人にとって〈やさしい日本語〉がもつ意義についても深く解説している。著者の庵功雄は一橋大学国際教育センター教授で、専門の日本語教育学、日本語学の一環として〈やさしい日本語〉の普及活動と研究を進めている。

〈やさしい日本語〉への書き換えの実践例が豊富に収録されているだけでなく、巻末の附録には「〈やさしい日本語〉マニュアル」として、〈やさしい日本語〉への書き換えや〈やさしい日本語〉で会話するためのポイントが記されている。〈やさしい日本語〉の概説書であり、その誕生の経緯や背景的思想といった部分を学ぶのに適した書籍である。

2. 『日本語で外国人と話す技術』

・著者 / 出版社

高嶋幸太/株式会社 くろしお出版

・目次

第1章 日本語で外国人とコミュニケーションができる

- 1 外国人とどう接する？
- 2 なぜ日本語でコミュニケーションするのか？
- 3 外国人も日本語を使ってみよう

第2章 外国人に伝わる日本語で話す

- 1 自己紹介をする
- 2 今週末の予定を話す
- 3 先週の京都旅行について話す
- 4 予定を聞いて誘う
- 5 好みを尋ねる
- 6 駅案内をする
- 7 道案内をする
- 8 写真撮影を手伝う
- 9 時間を述べる
- 10 コンビニで買い物をする
- 11 ホーム・ビジットで話す
- 12 留学生に大学の施設を案内する
- 13 留学生に授業について説明する
- 14 体調不良の児童生徒に話しかける
- 15 児童生徒の家庭に連絡事項を伝える
- 16 社外と日程調整をする
- 17 社内で業務の依頼をする
- 18 デパートでフロアガイドをする
- 19 衣料品店で接客する
- 20 商品案内をする
- 21 荷物発送の対応をする
- 22 飲食店が電話で予約を受ける
- 23 飲食店で接客する
- 24 宿泊施設でチェックインの対応をする
- 25 宿泊施設でチェックアウトの対応をする

第3章 外国人から見た日本語を知る

- 1 外国人から寄せられる日本語に関する質問
- 2 日本語の音声
- 3 日本語の文字・表記
- 4 日本語の語彙
- 5 日本語の文法
- 6 日本語のあいさつ表現
- 7 日本語の数字
- 8 日本語学習用の教科書における文体

付録 日本語で外国人と話すための語彙一覧

・所見

この本では、近年増加している日本を訪れる外国人とのコミュニケーションのため、自ら語学力を身につけたり、語学力がある人に通訳をしてもらったりするなどの手段から離れ、日本語が少し話せる外国人に対してはどのような日本語を使えば理解してもらえるかについて述べている。さらに、外国人と楽しく交流するための日本語コミュニケーションのポイントは何かを、普段外国人に日本語を教えている日本語教師の視点から伝えている。著者は日本語教師の高嶋幸太で、立教大学の講師や早稲田大学のインストラクターを務めている。

ここでは主に会話における〈やさしい日本語〉が扱われており、伝わらない日本語の例と伝わる日本語の例、さらに日本語学の見地からの統語論的解説を交えることで、言い換えの方法を読者に伝えている。また、単純に分かりやすい言葉に言い換えるだけでなく、「ターン・イールディング」のような会話テクニックや話のポイントを紙等に記述しながら話す方法等を提示し、日本語を少し話せる外国人にとって分かりやすく負担の少ない会話方法を示している実践的書籍である。このような技術は本事業における〈やさしい日本語〉においても紹介するべき内容であると思われる。

3. 『「やさしい日本語」は何を目指すか: 多文化共生社会を実現するために』

・著者 / 出版社

庵功雄、イ・ヨンスク、森篤嗣/株式会社 ココ出版

・目次

第1部「やさしい日本語」の実態

第1章 「やさしい日本語」とは何か 庵功雄

第2章 「やさしい日本語」の歴史 岩田一成

第3章 やさしい日本語による情報提供

----NHKのNEWS WEB EASYの場合

田中英輝 美野秀弥 越智慎司 柴田元也

第4章 「やさしい日本語」で作る地域社会 尾崎明人

第5章 「やさしい日本語」と接触場面 柳田直美

第2部「やさしい日本語」の諸相

第6章 語彙から見た「やさしい日本語」 森篤嗣

第7章 文法から見た「やさしい日本語」 岩田一成

第8章 「やさしい日本語」と文章の理解----背景知識の重要性

石黒圭

第9章 「やさしい日本語」作成支援システムとコーパス検索システム

児玉茂昭

第10章 「やさしい日本語」自動変換システム

山本和英・杵真奈見

第11章 リーディング・チュウ太と「やさしい日本語」

川村よし子

第12章 「やさしい日本語」を書く際の配慮・工夫の多様なあり方

宇佐美洋

第3部「やさしい日本語」について考える

第13章 「やさしい日本語」と国語教育 森篤嗣

第14章 日本語教育が「外国人対策」の枠組みを脱するために

----「外国人」が能動的に生きるための日本語教育

イ・ヨンスク

第15章 情報保障と「やさしい日本語」 あべ やすし

第16章 ろう児への日本語教育と「やさしい日本語」

岡典栄

第17章 「やさしい日本語」の批判的検討 安田敏朗

・所見

〈やさしい日本語〉研究の最前線がわかる1冊となっている。〈やさしい日本語〉の持つ3つの側面（補償教育の対象／地域社会における共通言語／地域型初級の対象）を軸に議論を展開しつつ、「外国人」だけでなく「視覚／聴覚障がい者」へも対象を広げ、その可能性をさぐっている。日本語母語話者がごく自然に「やさしい日本語」を話し、非母語話者の日本語がごく自然に受け入れられるような「成熟した多文化共生社会」の到来を願って、〈やさしい日本語〉に関する最新の研究成果について知らせるために作られた書籍となっている。

この書籍は、〈やさしい日本語〉を研究対象としている研究者グループによる論文集であり、その性格として一般の人々や外国人留学生ではなく同じ研究者や日本語学・日本語教育学を志す学生に向けて作られたものである。平成22年度から25年度及び平成25年度から28年度に科学研究費の研究課題として採択された〈やさしい日本語〉関連の研究成果をまとめたものであり、〈やさしい日本語〉の実践的な方法についてはあまり触れることはできない。〈やさしい日本語〉研究の現在のトレンド及び概念や理念といったものを理

論的に学びたい読者向けといえる。

4. 『やさしい日本語とやさしい英語でおもてなし』

・ 著者 / 出版社

藤田玲子、加藤好崇/株式会社 研究社

・ 目次

Chapter 1 「やさしい言語」でおもてなし

- 1 日本全国が国際観光地！ 準備はできていますか？
- 2 「やさしい日本語」のすすめ
- 3 「やさしい英語」のすすめ

Chapter 2 外国人観光客とのコミュニケーションと「オモテナシ」

- 1 異文化コミュニケーションは難しい？
- 2 非言語の異文化コミュニケーションとは？
- 3 あなたも異文化コミュニケーター
- 4 外国人への「オ・モ・テ・ナ・シ」

Chapter 3 「やさしい言語」のルール

- 1 やさしい言語の会話プロセス
- 2 「やさしい日本語」のルール
- 3 会話の開始と微調整の方法
- 4 「やさしい英語」のルール
- 5 慣れてきたら使いたい接客英語

Chapter 4 「オモテナシ」会話

基本フレーズ集

- 1 宿泊施設
- 2 情報提供

- 3 飲食店
- 4 お店・観光施設
- 5 災害

付録

- おさらい英文法
- 観光現場のやさしい英語パターン
- 英語の数字の読み方
- 日本語の数字の読み方
- 参考になるウェブサイト
- カタカナ語リスト

・所見

外国人観光客といえは英語で対応するべきと考えがちな日本人のために書かれた書籍。『やさしい日本語とやさしい英語でおもてなし』というタイトル通り、外国人観光客と接する機会の多い宿泊施設、飲食店、観光施設の人々にとって有用な会話・表現例が多く掲載されている。また、〈やさしい英語〉及び一部より洗練された接客英語による表現も併記されており、英語の学習をしたい読者にも有用なつくりとなっている。研究所ではないため、〈やさしい日本語〉に興味があるのであれば誰にとっても読みやすく書かれているため、概念と方法を知るための入門書として使うこともできる。

接客内容に偏っているため、本事業における学習項目に直接関わるものではないが、Chapter 1 には〈やさしい日本語〉に関する概説と〈やさしい日本語〉への言い換えのルールが比較的簡潔に分かりやすく述べられており、この点は参考になる。

5. 『Eラーニング版 わかる！伝わる！はじめての「やさしい日本語」』

～基礎文法編～』

・運営元

弘前大学人文学部社会言語学研究室

・学習項目

第1課 やさにハウ博士の基本講座

「文を簡潔にする」「漢字にはルビ（ふりがな）をふる」「分かち書きをする」

第2課 テレビの避難指示を理解しよう！

「易しい語を使う」「難しい語を言い替える」

第3課 安全な道を進もう！

「二重否定の表現は避ける」「あいまいな表現は避ける」「連体修飾節を簡単にする」

第4課 避難所への道を理解しよう！

「ローマ字表記を避ける」「漢字の量、難しさに気をつける」「動詞文を使う」

第5課 避難所で安心して過ごそう！

「文末表現を統一する」「カタカナ語の使用に気をつける」

「擬態語、擬音語を避ける」「時間表記を統一する」

おさらい問題 選択式の練習問題

・所見

この教材は、〈やさしい日本語〉の基本的な作り方をインターネット上で楽しく学ぶことを目的に作られた。作成者は、この教材を学ぶことを通して〈やさしい日本語〉が外国人に情報を伝えるための手段として有効なことを知ってもらい、災害が発生したときに〈やさしい日本語〉での情報提供に役立ててほしいと考えている。主な対象者は、〈やさしい日本語〉を使って外国人に情報提供している、

あるいは情報提供を考えている自治体や団体である。

構成は 5 つの課からなる物語形式になっている。内容としては弘前大学人文学部社会言語学研究室のホームページ上にも掲載している「増補版『やさしい日本語』作成のためのガイドライン」(2013)や「『やさしい日本語』にするための 12 の規則」をより簡潔にしたものとなっている。学習所要時間は 1 課あたり約 5 分で、気軽に短時間で、〈やさしい日本語〉の基本を身につけることができる。この教材は基本文法編と位置付けてあり、基本文法の先を学びたい者や、紙媒体で手元に印刷しておきたいと思った者は、同 WEB サイト上で「増補版『やさしい日本語』作成のためのガイドライン」(2013)を見ることができる。

E ラーニングの教材であることから、本事業におけるカリキュラムでも内容、構成、テストといった評価方法に関して大いに参考にすることができる。

6. 『やさしい日本語指導者養成講座』

・運営元

ヒューマンアカデミー

・学習項目

1. 基礎編①

やさしい日本語の基礎知識 外国人とのコミュニケーションの失敗事例

2. 基礎編②

語彙・文法・表現のレベルチェックの方法 分からない時のストラテジー/話し言葉と書き言葉 やさしい日本語の作り方

3. 応用編①

災害時の情報提供①

4. 応用編②

災害時の情報提供②

5. 応用編③

行政機関からの情報提供①

6. 応用編④

行政機関からの情報提供②

7. 応用編⑤

ツーリズムへの活用①

8. 応用編⑥

ツーリズムへの活用②

9. 応用編⑦

自由テーマ①

10. 応用編⑧

自由テーマ②

・ 所見

災害時や観光、生活の場などでわかりやすく伝わる日本語の使い方を理解し、多文化共生社会に向けた情報発信、および市民の育成を担う指導者を目指す講座。この講座で学べることは、「①日本に住む外国人や外国人観光客とのやさしい日本語を使った直接のコミュニケーション」及び「②日本に住む外国人や外国人観光者とやさしい日本語で直接コミュニケーションをとることができる一般市民（やさしい日本語リーダー）の育成技術」となっている。

〈やさしい日本語〉を受講者が実践できるようになるだけでなく、受講者自身が次の〈やさしい日本語〉実践者を要請することができる教師となるための講座である。講座内では受講者同士の情報共有やグループ、ディスカッションが重視される受講者主体の授業が提供される。言い換え、書き換えの例の学習や実践練習も豊富に取り入れられており、観光産業や行政関係の職に就いている者や外国人と関わることの多い人々が〈やさしい日本語〉を学ぶ

のに適したカリキュラム構成となっている。